

《担当者名》○向谷地生良 ikuyoshi@hoku-iryo-u.ac.jp 橋本菊次郎 hashimoto-kiku@hoku-iryo-u.ac.jp

【概 要】

「心を病む」という現象をいかに捉え理解するかの議論は、精神生物学や精神病理学、哲学、思想など広範な領域を巻き込む深遠なテーマとして今日に引き継がれている。しかし、これは、ともすれば当事者不在の議論になりがちであったが、1990年代に確立されたリカバリーの概念は、その議論の中心に、あらためて当事者の視点を持ち込むことの正当性を主張し、わが国の精神生物学的な治療への偏重を批判的に乗り越え精神保健医療福祉の共通概念として活用され、新たな潮流である当事者研究やオープンダイアログに代表される対話実践を支える原動力となっている。本講義は、対話実践の視点から精神医学の歴史と周辺の理論を批判的に検証し、ソーシャルワークにおける対話実践の意義と可能性について学ぶ。

【学修目標】

- ①精神医学の歴史の変遷を理解し、その影響下で発展してきたメンタルヘルスソーシャルワーク実践の今日的な課題を学ぶ。
- ②精神保健医療福祉領域における当事者研究やオープンダイアログなどの対話実践の今日的な意義を理解し、活用できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1・2	授業の進め方	講義の全体の構成・狙いについて説明し、現時点における自身の対話実践についての理解度および自身の対話実践について確認する。	向谷地生良 橋本菊次郎
3・4	精神医学の歩みと対話実践の意義と可能性	当事者研究やオープンダイアログなど対話実践が現代の精神医療に及ぼす可能性と普及の課題を学ぶことで実践の手掛かりを得る。 斎藤 環 「開かれた対話と未来 今この瞬間に他者を思いやる」 医学書院2019 鈴木晃仁他 精神医学の哲学2「精神医学の歴史と人類学」	向谷地生良 橋本菊次郎 斎藤 環： (第3回特別講師)
5・6	精神研究のインパクト	当事者研究の登場が当事者運動や学術研究に与えたインパクトを学び、今後の実践への示唆を得る。 熊谷晋一郎「みんなの当事者研究」金剛出版 石原孝二編「当事者研究の研究」医学書院	向谷地生良 橋本菊次郎 熊谷晋一郎： (第5回特別講師)
7・8	当事者研究の源流	当事者研究の持つ言葉・知識・価値の源流としての自立生活運動などの当事者運動やAAなどの自助活動を学ぶことで当事者との協同の可能性を学び実践への示唆を得る。	向谷地生良 綾屋紗月： (第7回特別講師)
9・10	対話の可能性	「日本語には対話の概念がない」と言われる中で、ケアは、「対話の構造を要求する」というジレンマを乗り越える対話的な現実を見出すための手掛かり	向谷地生良 平田オリザ： (第9回特別講師)
11・12	ソーシャルワークにおける対話実践の意義と可能性	ソーシャルワーク理論の系譜を対話実践の視点から検証し、これからのメンタルヘルス領域におけるソーシャルワーク実践における「対話」の可能性を捉える手掛かりを得る。	向谷地生良 橋本菊次郎 中村和彦： (第11回特別講師)
13	対話実践と認知ヒューマニスティックアプローチの可能性	狭間香代子「社会福祉の援助観」筒井書房 向谷地生良「技法以前」医学書院	向谷地生良 橋本菊次郎
14	当事者研究の可能性	「レッツ当事者研究Ⅰ－Ⅲ」地域精神保健福祉機構	向谷地生良 橋本菊次郎
15	まとめ	対話実践の可能性	

【授業実施形態】

直接授業と遠隔授業の併用

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

講読のプレゼンテーション（50%）および討議への参加（50%）などにより評価する。

【教科書】

授業計画に示す講読書物と同じ

【学修の準備】

関連文献を読み、ディスカッション等に反映できるような準備が望まれる。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、高度専門職業人としてリハビリテーション科学の実践に寄与できる優れた知識・技術と研究能力の基礎を修得するというリハビリテーション科学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

向谷地生良（精神保健福祉士） 橋本菊次郎（精神保健福祉士）

【実務経験を活かした教育内容】

精神保健福祉士、ソーシャルワーカーとしての実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。